
「PINK1 タンパク質の発現量における大腸癌の術後補助化学療法の効果予測の検討」に関するお知らせ

このたび、当院で診察を行った患者さんの検体を用いた以下の研究を実施いたします。
本研究は、国際医療センター臨床研究 IRB の承認を得て、病院長による許可のもと行うものです。
本研究では、患者さんに追加でご負担をお願いすることはありませんが、残余検体やカルテ情報等を使用することに賛成でない場合、あるいはご質問がある場合は、患者さんご自身でもその代理人の方でも結構ですので、問い合わせ先までお申し出ください。お申し出いただいても不利益になることは一切ありません。

研究の概要について

1. 研究の対象となる方

2016年1月1日～2016年12月31日の期間内に、埼玉医科大学国際医療センター下部消化管外科で大腸癌に対し根治切除を受けた大腸癌患者で、Stage または のうちフッ化ピリミジンを基盤とした術後補助化学療法 (5FU, Capecitabine, S-1, UFT+Calcium Folate, Capecitabine+Oxaliplatin, 5FU+Oxaliplatin)を受けた患者を対象とします。

除外基準

大腸癌術後補助化学療法前にフッ化ピリミジン以外の化学療法歴を有する患者
非根治切除患者
重複癌（大腸癌手術5年以上前に切除され根治とみなされ、無治療のものは除く）
本研究に対する参加について拒否された患者
術後補助化学療法と放射線療法を併用している患者

2. 研究の目的

腸癌の5-FUを基盤とした補助化学療法において、効果不良群とPINK1タンパク質の高発現とが相関しているかを調べる事で効果予測因子の確立を目指す。さらに、PINK1タンパク質の高発現による5-FUを基盤とした補助化学療法に対する抵抗性の生物学的特性を調べる事で、新たな治療法の知見を得る事を目的とする。

3. 研究期間

病院長の許可後～2026年12月31日

4. 利用または提供の開始予定日

研究実施許可後から、約1か月程度
開始予定日以降も研究への利用停止などのお申し出に対応いたします。

研究に用いる試料・情報について

1. 試料・情報の内容

大腸癌組織のパラフィンブロック

大腸癌の、癌部より抽出した核酸(total RNA)。

臨床所見(再発所見、全生存期間)。

この研究で得られた患者さんの情報は、国際医療センターにおいて、研究責任者である藤井能嗣が、個人が特定できないように加工した上で管理いたします。そのため、患者さんのプライバシーが侵害される心配はありません。

2. 試料・情報の取得方法

大腸癌と診断された患者さんに対して行われた根治切除術で得られた手術検体を用います。

3. 試料・情報を利用する者(研究実施機関)

埼玉医科大学国際医療センター 消化器外科 助教 藤井能嗣

埼玉医科大学国際医療センター がんゲノム医療科 講師 平崎 正孝

埼玉医科大学国際医療センター がんゲノム医療科 臨床検査技師 鎌倉 靖夫

埼玉医科大学国際医療センター 病理診断科 教授 川崎朋範

埼玉医科大学国際医療センター 下部消化管外科 教授 平能康充

埼玉医科大学国際医療センター 下部消化管外科 助手 岡崎直人

埼玉医科大学国際医療センター 消化器腫瘍科・がんゲノム医療科 教授 濱口 哲弥

4. 試料・情報の管理責任者

埼玉医科大学国際医療センター 病院長

5. 試料・情報の提供方法等について

お問い合わせについて

ご自身の検体やカルテ情報等を利用されたくない場合、あるいはご質問がある場合には、以下の連絡先までご連絡ください。

利用されたくない旨のご連絡をいただいた場合は、研究に用いられることはありません。

ただし、ご連絡いただいた時点で、既に研究結果が論文などで公表されていた場合、結果などを廃棄することができないことがありますので、ご了承ください。

埼玉医科大学国際医療センター 消化器外科 藤井能嗣

住所：〒350-1298 埼玉県日高市山根 1397-1

電話：042-984-4532 (土日祝日を除く 8:30~17:30)

メールアドレス：tfujii.com@gmail.com

- 研究課題名：PINK1 タンパク質の発現量における大腸癌の術後補助化学療法の効果予測の検討
- 研究代表者：埼玉医科大学国際医療センター 消化器外科 藤井能嗣